

経済・金融 フラッシュ

【東南アジア経済】

ASEANの貿易統計(5月号)

～3月の輸出は6カ国全てで前年割れに

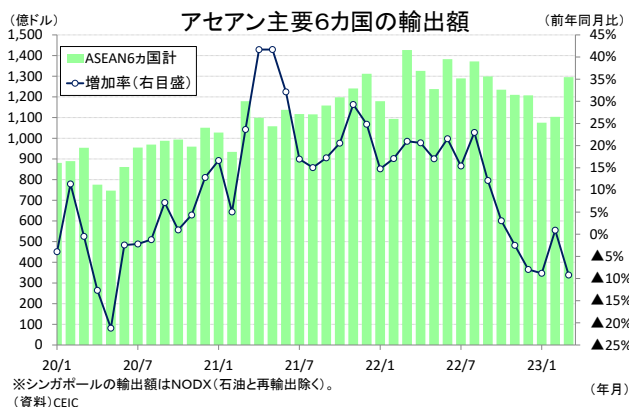
経済研究部 准主任研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

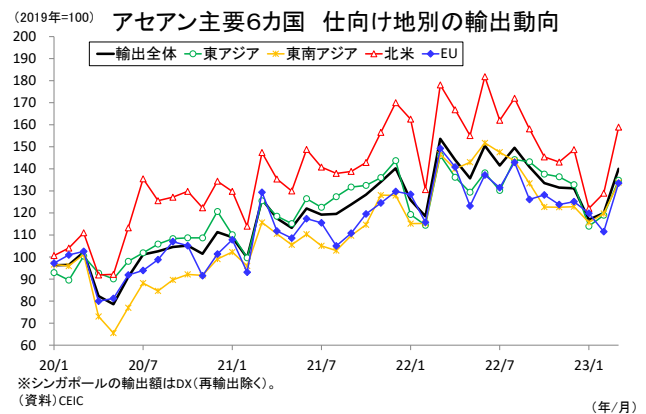
2023年3月のASEAN主要6カ国の輸出（ドル建て、通関ベース）は前年同月比9.2%減（前月：同0.9%増）と減少した（図表1）。2月はベトナムやマレーシアなどが旧正月の休暇時期のずれにより輸出が上振れてプラスの伸びとなったが、3月は再び減少した。唯一輸出の増加が続いたインドネシアも3月は商品市況の下落により前年割れとなった。輸出の基調は昨年半ばまでコロナ禍からの回復や商品市況の高止まりにより好調が続いたが、その後は欧米を中心とした外部環境の悪化や資源価格の軟化により増勢が鈍化し、11月以降は減少傾向にある。輸出の先行きは中国经济の回復や供給制約の緩和により徐々に持ち直していくものの、当面は物価高などの影響で世界経済が減速するため軟調に推移するものとみられる。

ASEAN6カ国の仕向け地別の輸出動向を見ると、東アジア向け（中国を含む）が同7.7%減（前月：同4.0%増）、東南アジア向けが同8.7%減（前月：同3.9%増）となり、それぞれ旧正月の休暇時期のずれの影響が剥落して再び減少した（図表2）。また物価高と金利上昇の影響で経済活動が鈍化している北米向けが同10.8%減（前月：同1.3%減）、EU向けが同10.5%減（前月：同3.6%減）となり、それぞれ低迷した。

（図表1）



（図表2）



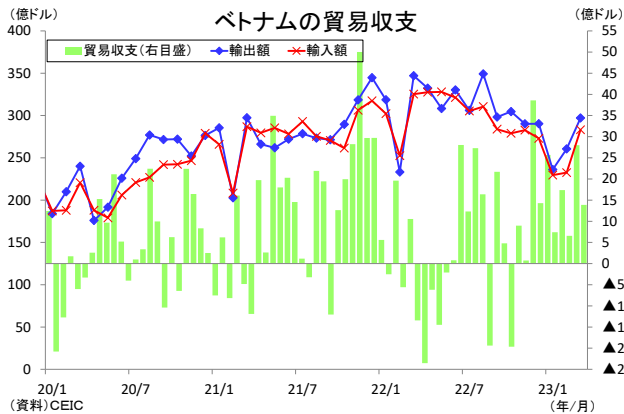
ベトナムの3月の輸出額（通関ベース）は前年同月比14.4%減（前月：同11.7%増）の297億ドルとなり、2ヵ月ぶりに減少した（図表3）。昨年は2月がテト（旧正月）のため稼働日が少なかった反動により2月の輸出は増加したが、3月は再び減少した。輸出の基調は昨年後半までコロナ禍からの世界経済の再開や電子製品の需要拡大により増加傾向が続いたが、その後は世界経済の減速により主力のスマートフォンや電子製品、アパレル製品の出荷が振るわず減少傾向が続いている。また輸入額は前年同月比12.9%減（前月：同7.9%減）の283億ドルとなり低迷した。結果として、

貿易収支は+13.9億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から14.1億ドル縮小した。

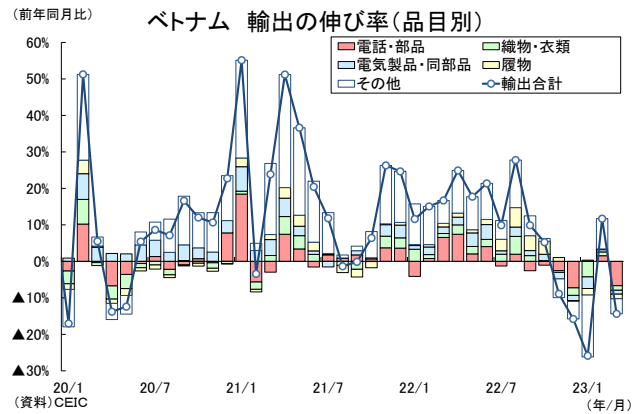
輸出を品目別にみると、輸出全体の約2割を占める電話機・同部品が前年同月比35.5%減（前月：同9.4%増）、コンピュータ電子製品・同部品が同7.0%減（前月：同3.7%減）となり、それぞれ再び減少した（図表4）。アパレル関連も、履物が同22.1%減（前月：同3.7%増）、織物・衣類が同14.0%減（前月：同11.9%増）となり、それぞれ減少した。農林水産物を見ると、水産物（同24.4%減）と天然ゴム（同19.0%減）は減少したものの、カシューナッツ（同23.6%増）と野菜（同22.0%増）、コメ（同93.5%増）、コーヒー（同1.8%増）が増加するなど、品目によってばらつきが見られた。

輸出を資本別に見ると、全体の7割を占める外資系企業が同15.8%減（前月：同11.6%増）、地場企業が同10.3%減（前月：同12.1%増）となり、揃って減少した。

（図表3）



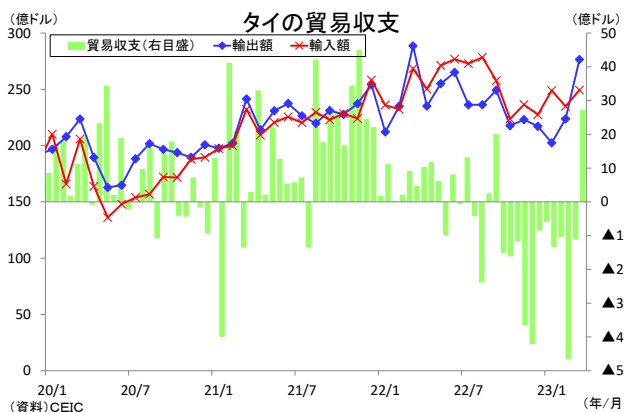
（図表4）



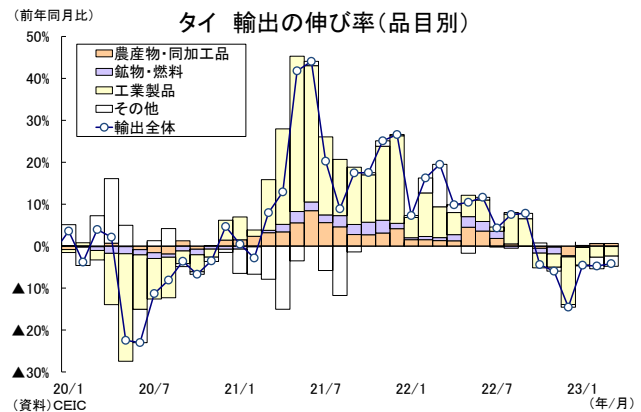
タイの3月の輸出額（通関ベース）は前年同月比4.2%減（前月：同4.7%減）の276億ドルとなり、6カ月連続で減少した（図表5）。輸出の基調は昨年半ばまでコロナ禍で停滞した経済活動の再開や世界的な電子機器の需要増加、国際商品市況の上昇などから増加傾向が続いたが、その後は海外需要の鈍化により主力の工業製品の出荷が振るわず、減少傾向で推移している。また輸入額も前年同月比7.1%減（前月：同1.1%増）の249ドルと減少した。結果として、貿易収支が+27.2億ドルとなり、1年ぶりの黒字となった。

輸出を品目別にみると、全体の約7割を占める工業製品が同3.4%減となり、前月の同3.7%減に続いて減少した（図表6）。製造品の内訳を見ると、主要製品である自動車・部品（同2.7%増）と家電製品（同8.0%増）は小幅に増加したものの、石油化学製品（同19.5%減）や金属・鉄鋼（同

（図表5）



（図表6）

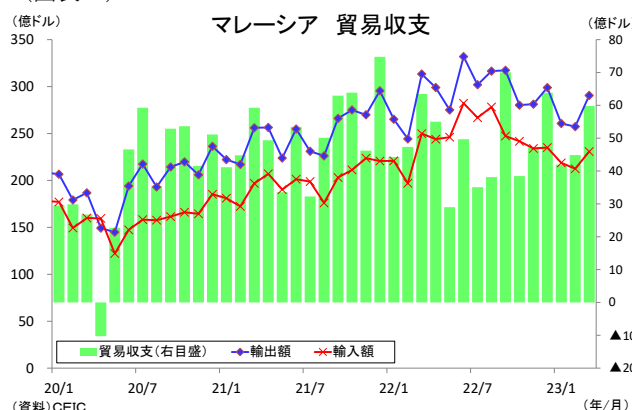


13.7%減)、電子製品(同1.6%減)、機械・装置(同1.4%減)など減少した品目が多かった。また鉱業・燃料も同2.8%減(前月:同0.8%増)と減少した。一方、農産物・同加工品は同3.3%増(前月:同3.0%増)となり、2ヵ月連続で増加した。農産物・同加工品の内訳をみると、天然ゴム(同41.1%減)が減少したものの、ドリアン(同237.6%増)やコメ(同7.2%増)、加工食品(同6.0%増)、ゴム製品(同0.9%増)など増加した品目が多かった。

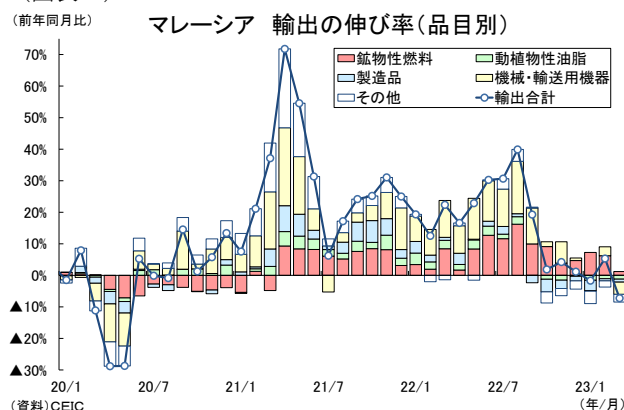
マレーシアの3月の輸出額(通関ベース、ドル換算)の伸び率は前年同月比7.3%減(前月:同5.3%増)の290億ドルとなり、2ヵ月ぶりに減少した(図表7)。輸出の基調は昨年半ばまでコロナ禍で停滞した経済活動の再開や電気電子製品、石油ガス製品の需要拡大を追い風に増加してきたが、その後は世界的な需要減退により伸び悩んでいる。また輸入額も前年同月比7.6%減(前月:同7.9%増)の230億ドルと減少した。結果として、貿易収支が+59.8億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から14.9億ドル拡大した。

輸出を品目別にみると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器は同8.5%減(前月:同6.5%増)となり、主力の電気・電子製品(同10.1%減)を中心に減少した(図表8)。また前月まで大幅な増加が続いた鉱物性燃料は同8.6%増(前月:同48.6%増)と鈍化、天然ガス(同4.8%増)と石油製品(同27.8%増)が増加したものの、原油(同10.5%減)が急減した。一方、化学製品(同14.5%減)と動植物性油脂(同18.1%減)が引き続き減少したほか、ゴム手袋(同45.5%減)がコロナ禍の需要増に伴う反動減で低迷した。

(図表7)



(図表8)

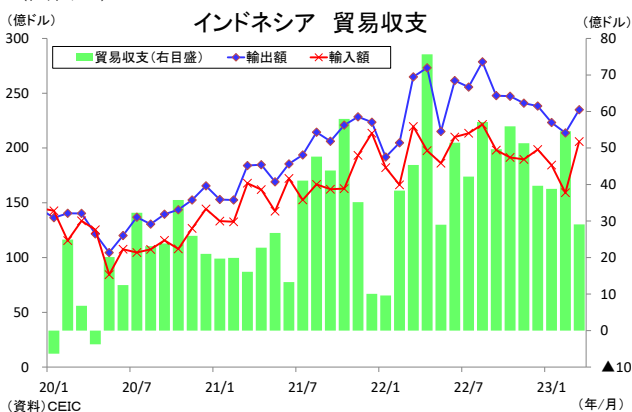


インドネシアの3月の輸出額(通関ベース)は前年同月比11.3%減(前月:同+4.4%増)の235億ドルとなり、2020年10月以来の前年割れとなった(図表9)。輸出は昨年半ばまでコロナ禍で停滞した経済活動の再開や国際商品市況の高止まりにより好調が続いたが、その後は海外経済の減速や石炭およびパーム油の価格下落などにより輸出の勢いが弱まっている。また輸入額は前年同月比6.3%減(前月:同4.3%減)の205億ドルとなり、2ヵ月連続で減少した。結果として、貿易収支が+29.1億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から25.6億ドル縮小した。

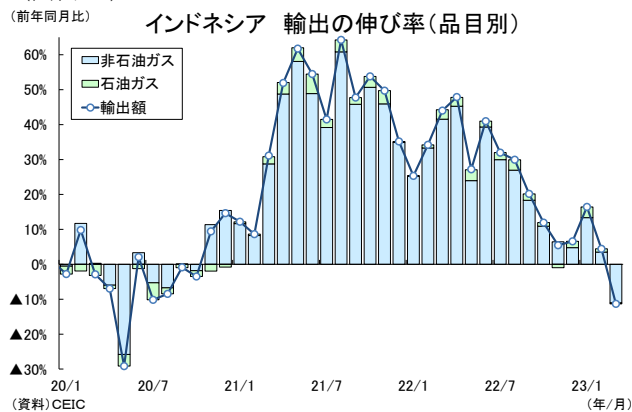
輸出を品目別にみると、全体の9割を占める非石油ガス輸出が同11.7%減(前月:同3.7%増)、石油ガス輸出も同4.8%減(前月:同19.3%増)と、それぞれ減少した(図表10)。まず前月まで好調だった鉱産物(同5.0%減)が2020年11月以来の減少となった。また動植物性油脂(同28.2%減)や化学製品(同24.4%減)、木材・木製品(同23.5%減)、織物類(同22.7%減)、プラスチック・ゴム製品(同17.2%減)、鉄・鉄鋼(同10.2%減)、機械類(同6.9%減)が減少したほか、

自動車・同部品（同0.4%増）も伸び悩んだ。電気機械（同8.2%増）は堅調に増加した。

（図表 9）



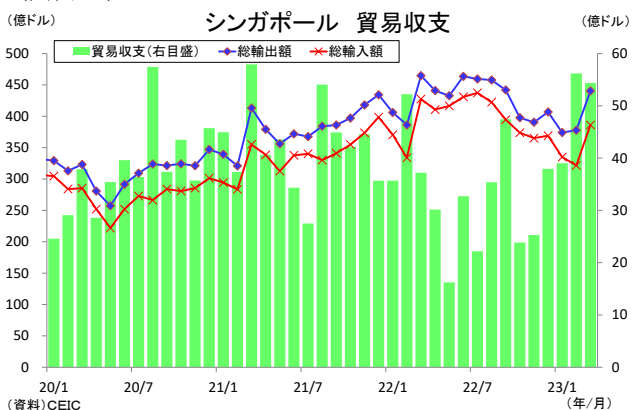
（図表 10）



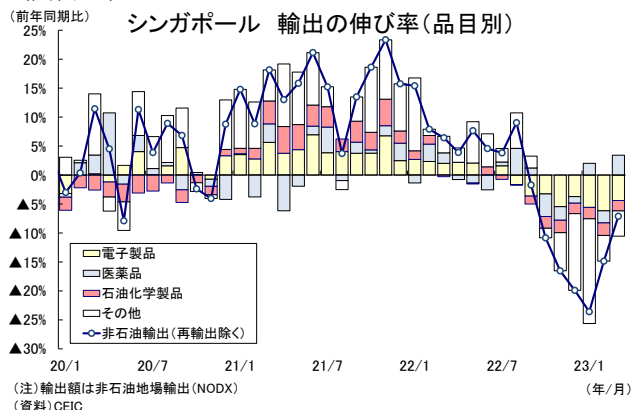
シンガポールの3月の輸出額（石油と再輸出除く、通関ベース、ドル換算）は前年同月比7.1%減（前月：同14.9%減）の131億ドルとなり、7カ月連続で減少した（図表11）。輸出の基調は昨年半ばまで世界的な電子製品の需要拡大や石油製品の価格上昇により増加傾向が続いたが、その後は中華圏向けやマレーシア向けを中心に電子製品、非電子製品がそれぞれ振るわず減少が続いている。なお、総輸出額は同5.2%減（前月：同2.2%減）の440億ドル、総輸入額が同9.7%減（前月：同3.7%減）の386億ドルとなり、それぞれ減少が続いた。結果として、貿易収支は+54.4億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から1.8億ドル縮小した。

輸出（石油と再輸出除く）を品目別にみると、まず全体の約2割を占める電子製品は同21.2%減（前月：同25.7%減）と低迷した（図表12）。電子製品の内訳を見ると、主力のIC（同27.6%減）やディスクメディア（同40.7%減）、PC（同18.7%減）が揃って減少した。全体の約3割を占める化学品は同0.5%減（前月：同16.8%減）となり減少幅が縮小した。化学品の内訳を見ると、石油化学製品（同22.0%減）が低迷した一方、医薬品（同28.5%増）は2ヵ月ぶりに増加した。

（図表 11）



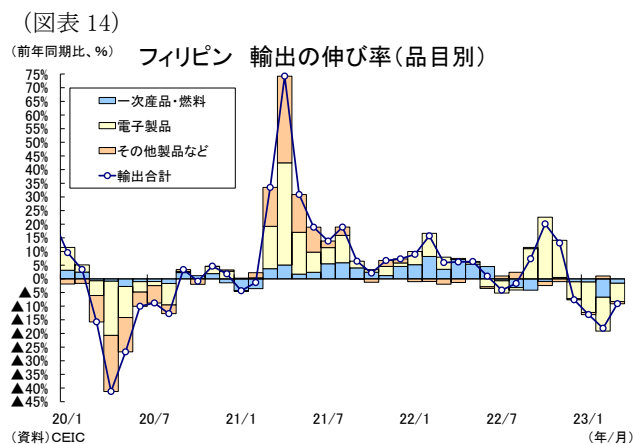
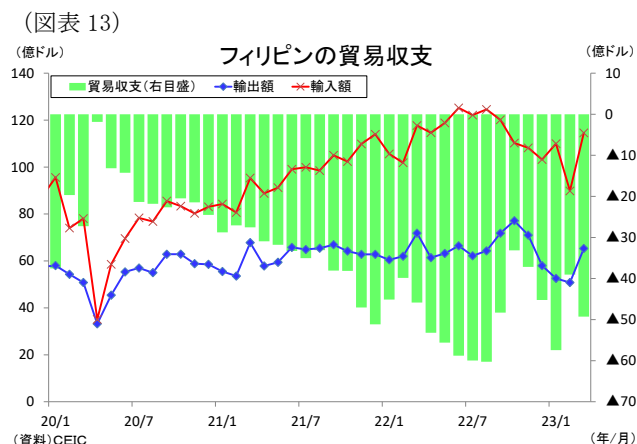
（図表 12）



フィリピンの3月の輸出額（通関ベース）は前年同月比9.1%減の65億ドルとなり、前月の同18.1%減から減少幅が縮小したが、4ヵ月連続の前年割れとなった（図表13）。輸出の基調は昨年後半に電子製品を中心に3ヵ月連続で増加した後、世界的な需要が軟化するなかで主力の電子製品の出荷が落ち込み、減少が続いている。また輸入額は前年同月比2.7%減（前月：同11.8%減）の114億ドルとなり、2ヵ月連続で減少した。結果として、貿易収支は▲49.3億ドルの赤字となり、

赤字幅が前月から10.2億ドル拡大した。

輸出シェア上位10品目をみると、まず輸出全体の6割弱を占める電子製品が同12.1%減（前月：同22.3%減）となり、4ヵ月連続で減少した（図表14）。電気製品の内訳を見ると、主力の半導体デバイス（同12.1%減）と電子データ処理機（同30.6%減）の大幅な減少が続いた。その他9品目については、機械・輸送用機器（同20.0%増）とイグニッションワイヤーセット（同19.0%増）が増加したものの、ココナッツオイル（同26.9%減）、金属部品（同11.1%減）、製錬銅（同8.4%減）、化学品（同7.6%減）、その他製造品（同6.3%減）、その他鉱業品（同6.2%減）、電子部品（同2.7%増）が減少するなど、総じて減少した品目が多かった。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。